

特集 先輩アンケート 憧れの職業

今、中学生がなりたい
職業に就かれている先輩方に
スバリ聞いてみました！

Q 質問

- ① お仕事の内容
- ② いつ頃から今の職業を考えられていましたか？
- ③ その職業に就きたいと思ったきっかけは？
- ④ 今の職業に就くための進路(学歴)は？
- ⑤ 今の職業のやりがいとは？
- ⑥ 仕事で大変な事はありますか？
またどうやって乗り越えられましたか？
- ⑦ 最後に子どもたちへメッセージを

美容師

ABC美容院勤務

平野麗美さん



- ①美容師です。お客様のヘアカットカラー・パーマやまつげパーマやメイクと美に関わることをしています。
- ②小学校低学年から。
- ③実家が美容室だったことが大きいです。母の仕事ぶりをいつも見ていて、知らないうちに好きになっていました。
- ④高校(兵庫県立生島商業高校商業科) 商売や経営の事が学びたくて商業科を選びました。関西美容学校美容科専門学校は通信で受けて、高校に通いながら土日は母の美容室でアルバイトをしていました。
- ⑤髪型で人の印象はとても変わります。お客様に気に入ってもらえる髪型を作り、喜んでもらったときの感動は何度味わっても幸せです。
- ⑥髪型やカラーにも流行があるので毎年変わることで。練習あるのみ!!
- ⑦私は小学校時代からずっと美容師という夢を持ち続け、叶えることができました。正直、私には向いていないんじゃないかと思ったときは何度もあります。今も続けていけるのはお客様に恵まれた事と私にはこれしかないという気持ちだと思います。毎日コツコツ努力するしかないと思います。努力して練習してそれが自信になるのです。みなさんの夢を叶えるために頑張ってください。

公務員

瀬戸内市役所勤務

新田貞文さん



- ①市役所の観光振興課にいます。
- ②一度民間企業に入った後から転職した。
- ③東京の民間企業の厳しい競争の中いろいろ考えた結果、自分の育った地元でできる仕事がないか考えたから。
- ④高校(県立大島高等学校) 大学(慶政大学法学部)
- ⑤生まれ育った地元で働ける喜びがあります。
- ⑥毎年瀬戸内市には沢山の観光客の方が来られています。これは観光事業に携わってきた沢山の方々の方々の今までの努力の賜物です。さらに時代のニーズをとらえた新しい試みに取り組んでいきたいと思っています。私なりの工夫としては他の部署の者を巻き込んで職員の連携を深めて総力を結集した観光事業を行ってきました。
- ⑦同じ公務員でも警察官や学校の先生と比べて何をしているのかわかりにくいと思います。市役所の中にはいろいろな仕事がありますが、市役所に入りたくて思っている人には勉強のほかに周囲の人と仲よくできること、いろいろなお手伝いができることに心がけるのがいいのではないかと思います。今でいうコミュニケーション能力といいいものはますます大切になってきます。

看護師

校区内のお医者さんにいます

田村友美さん



- ①病院の病棟で入院患者さんのお世話や看護技術の提供をしています。
- ②中学生になってから。
- ③祖母が入院して、お見舞い行った時の看護師さんがとてもカッコよくそして優しく憧れました。
- ④専門学校(瀬戸内看護福祉専門学校看護学科)
- ⑤とても大切な「命」と直接向き合い、一生懸命患者さんのお世話をすれば「ありがとう」と言ってもらえます。その積み重ねで私自身の中に「優しさ」が生まれ、自分自身人として成長させていただいています。
- ⑦毎日、毎日とにかく忙しいです。患者さんの大切な「命」と関わっているため、気を抜くこともできません。夜勤も体力的にとっても厳しいですが、信頼し合える職場の皆さんと助け合いながら大変さを乗り越えています。
- ⑦中学生の皆さんはさまざまな夢を抱えていることでしょう。大きな夢、小さな夢、いろいろだと思いますがそれを実現するのは他でもない皆さん自身です。そして大人になるときは思いのほか早くやってきます。大人になってから慌てることのないよう、今から夢の実現に向けて少しずつ努力していきましょう。

消防士

大阪府のレスキュー隊です

三船敏也さん



- ①レスキュー隊に所属しています。緊急時の出動、救助を主な任務としています。
- ②高校生になってから。
- ③高校時代、阪神淡路大震災での実家(東灘区)での経験を通して、人を助ける仕事がしたいと思いが強くあったため
- ④高校(神戸東灘高校) 大学(京都福祉大学経済学科)
- ⑤人命救助には絶対的な使命感を感じています
- ⑥夜間業務がハードなところ、年齢による体力の低下が問題。日々のトレーニングを大切にしています。
- ⑦私たちの仕事は人命に関わるとても大切な仕事です。今の時代はさまざまな自然災害などの多発化で非常にハードな救助活動が必要となっております。やる気溢れる、若い方のエネルギーをお待ちしております。



医師

真田クリニック院長

真田平助さん



- ①0歳から100歳以上まで病気の予防、健康づくり、外来でも在宅でもやさしい病気も難しい病気も…命を癒し、暮らしを支え、旅立ちまで見守っています。
- ②小学校高学年から。
- ③近くに診療所がなく、受診が大変だったこと
- ④高校(県立瀬戸内高校) 大学(東坂大学医学部 医学科)
- ⑤「穏やかに、朗らかに、和やかに」人生の初めから最後まで過ごしていただくためのお手伝いができること、患者さんにもご家族にも関わる人たちにも自分にも。
- ⑥時代にそぐわない考え方、やり方に対するこだわりが強い方々の関わり。まず話し合い、そして勉強してもらおう機会の確保
- ⑦ICT(情報通信技術)の進歩で今の仕事の半分はロボットが行えるようになるとも言われています。Life(生命・生活・人生)に深くかかわる視点を養って地域社会・ふるさとを支えてください。



思い出してみてください。お子さんが小学生までのころは「将来何になりたい?」と尋ねると目をキラキラ輝かせて、「〇〇になる!」と無邪気に答えてくれた頃を…
今回のアンケートではなりたい職業に向け、具体的に行動しているお子さん、そうでないお子さん、まだ夢が見つからないお子さん、いろんなお子さんの状況が見えてきました。年の祝い行事とある著名なピアニストの方が子どもたちに「夢はいくら変わってもいい、持ち続けることが大切」と語りかけてくださいました。

中学生になると勉強や部活動などで忙しく、また思春期特有の原因のわからない苛立ちや不安も多いことでしょう。アンケートでもあったように誰かに相談することで何かに気づききっかけになるかもしれません。ぜひ、保護者としてわが子の夢実現に向けて少しでも自信を持てるよう、わが子が願う夢について耳を傾けてみませんか。